

Bull. Environ. Contam. Toxicol.,  
44 (2), 260~267 (1990).

Diuron および Fluometron とそれぞれの代謝物 3 化合物を silt loam soil に処理し、綿の種子を播種して慣行栽培し、収量、繊維質に及ぼす影響を調べた。Diuron は 0.51mg/kg, DCPMU は 0.51mg/kg, DCPU は 0.45mg/kg, DCP は 0.49mg/kg の播種前処理、および発芽前処理で対象と比べて生長、種子、綿の収量に有意な影響は認められなかった。一方、Fluometron は 1.0mg/kg の播種前処理で対象と比べて種子、綿の収量が増加したが、代謝物 TFMA の 1.0mg/kg の播種前処理でさやの数が減少し、種子および綿の収量が有意に減少した。綿の繊維質に対する影響はいずれの化合物でもとくに認められなかった。

アトラジンの変化生成物の土壌による吸着  
Adsorption of transformation  
products of atrazine by soil.  
Weed Res. 30 (2), 123~128 (1990).  
アトラジンとその変化生成物, desisopropylatrazine, desethylatrazine, hydroxatrazine の 4 種の表層土壌に対する吸着を測定した。土壌吸着係数 (Kd) は hydroxatrazine, atrazine, desisopropylatrazine, desethylatrazine の順序に減少した。有機物と水との間の分配係数 (Kom) はアトラジンの 40~100 dm<sup>3</sup> kg<sup>-1</sup>, desisopropylatrazine の 30~60 dm<sup>3</sup> kg<sup>-1</sup>, desethylatrazine の 20~50 dm<sup>3</sup> kg<sup>-1</sup>, hydroxatrazine の 100~590 dm<sup>3</sup> kg<sup>-1</sup> の間に分布した。

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術顧問 金澤 純

## 植調協会だより

### ◎会議開催日程のお知らせ

- 平成元年度秋冬作芝関係除草剤・生育調節剤  
試験成績検討会  
日時：平成 2 年 7 月 23 日~24 日 13 時

場所：手結山観光ホテル会議室（高知県香美  
郡夜須町手結山506-1）

- 平成元年度秋冬作野菜・花き関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会

日時：平成 2 年 7 月 26~27 日 10 時

場所：ホテル湖畔会議室（新潟市紫竹山  
498）

財団法人 日本植物調節剤研究協会  
東京都台東区台東 1 丁目 26 番 6 号  
電話 東京 (03) 832-4188 (代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 吉沢 長人  
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

平成 2 年 7 月発行 定価 412 円 (送料 210 円)  
植調第 24 巻第 4 号 (本体 400 円, 消費税 12 円)

東京都台東区台東 1-26-6 全国農村教育協会  
発行所 植調編集印刷事務所  
電話 東京 (03) 833-1821 番 (代)